

関係機関・団体・課・室長 様

兵庫県農政環境部長

平成28年度 兵庫県農業気象技術情報第5号（9月情報）について（送付）

このことについて、下記のとおり情報を作成しましたのでお送りします。

記

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育状況</p> <p>県北部の極早生品種コシヒカリの出穂期は平年よりやや早く、草丈は短く、茎数は少ない。8月上旬の平均気温が平年より高く、7月5半旬頃に出穂した場合は、高温障害による白未熟粒の発生が懸念される。</p> <p>県南部の出穂期は極早生品種のキヌヒカ리는平年よりやや早く、中生品種のヒノヒカリ、晩生品種の山田錦も平年より早い。草丈はキヌヒカリ、ヒノヒカリでやや高め、山田錦で低め。茎数はキヌヒカリで平年並み、ヒノヒカリ、山田錦で茎数は少ない。</p> <p>成熟期はやや早まると考えられる。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) 穂いもちについてはやや少ないと予想される。向こう1か月の気温は高い、降水量は平年並み～やや多いと予想されており、穂いもちの目立ったほ場、多肥により葉色の濃いほ場、山間部の日照の少ないほ場などでは発生がやや多くなると予想される。</p> <p>(2) 紋枯病は現在平年並の発生である。しかし、気象条件により、急激に病勢進展する可能性があり、普通期においては注意が必要である。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並み～やや多いと予想されており、ほ場によっては多発する場合もあると思われる。</p>	<p>1 生育状況</p> <p>落水まではできるだけ飽水管理に努める。水が少ない場合は走り水でも良い。ほ場の乾燥状況に注意して、収穫作業に支障のない限り、落水時期は刈取り7日前を目安とする。</p> <p>適期刈取りを行う。刈取りの目安は、稔実もみの85%（山田錦は90%）が黄化したときである。特に極早生品種は胴割れ防止のため、玄米水分の低下に留意し、刈り遅れに注意する。黄化もみ率は正常穂で判定すること。</p> <p>乾燥にあたっては必ず水分チェックを行い、急激な乾燥は避ける。</p> <p>外気温が高いとき、乾燥設定温度が低いと、乾燥時間が長引いて、品質が低下することがある。</p> <p>2 病害虫</p> <p>(1) ほ場及び周辺ほ場をよく見回り、発生状況を確認する。すでに穂いもち病斑がある場合は、箱施用剤の効果は切れているので、穂へ感染する可能性があり、注意が必要である。防除は、薬剤の種類と散布時期に注意する。</p> <p>(2) ほ場をよく見回り、適宜農薬散布を行う。また、多発ほ場では早めに秋すきを行い、越冬菌核の減少を図る。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対 応 策
水稲 続き	全 県 共 通	<p>(3) ウンカ飛来予測システム（JPP- NET）によると、7月上～中旬に飛 来波が認められているが、トビイロ ウンカの県内の3カ所に設置して いる予察灯への飛来、及び場内ほ場 での発生は確認されていない。一 方、現地ほ場では一部（発生ほ場率 4.2%）で発生を認めており、今後 の発生状況に注意が必要である。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、現在、平年 並の発生である。予察灯およびフェ ロモントラップへの誘殺も増加が 見られ始めている。向こう1か月の 気温は高いと予想されており、本虫 の発生は平年並みと予想される。</p>	<p>(3) 収穫期が10月以降になる作型（ヒノヒカリ ・山田錦等）や無防除ほ場においては、坪枯 れが生じる可能性が高い。8月下旬～9月上 旬における本虫の密度が要防除水準（成・幼 虫5頭/株）を超える場合は速やかに防除を 実施する。</p> <p>(4) 斑点米カメムシ類は、穂揃期に防除を徹底 して行う。ヒエの穂やホタルイの小穂が発生 源となるので、特にヒエやホタルイの発生ほ 場は防除を行う。</p>
大豆	全 県 共 通	<p>1 生育状況 開花期も平年並みで、生育は順調で ある。晴天が続き乾燥したほ場が見受 けられる。</p> <p>2 病害虫 (1) 立枯性病害について場内ほ場で は発生は認められていないが、現地 ほ場では一部で発生が認められて いる（11.8%、76ほ場、7月中下旬 調査）。今後の気象条件は高温で推 移すると予想され、茎疫病等が発生 しやすいと考えられ、平年並の発生 で推移すると考えられる。</p> <p>(2) ハスモンヨトウは場内ほ場では 発生は認められていないが、現地ほ 場では一部でふ化幼虫による白変 葉の発生が認められている（22.2 %、76ほ場調査、7月中下旬調 査）。今後の気象条件は高温で推移 すると予想され、やや多い発生で推 移すると考えられる。</p>	<p>1 生育状況 土壌が乾燥する場合は、走り水等により土壌 水分を一定に保ち、莢伸長や子実肥大が順調に 進むよう努める。一方、降雨による滞水がない ように、ほ場の排水を良くする。</p> <p>2 病害虫 (1) ほ場の排水対策を行い、発病しにくい環境 を作る。</p> <p>(2) ほ場を良く観察し、ハスモンヨトウによる白 変葉の発生に注意をはらい、適切に薬剤を散 布する。</p>

作物	地域	栽培上の留意点	対応策										
キャベツ	全県共通	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 近年、ゲリラ豪雨の発生が多く、冠水や降雨に伴う作業の遅れが懸念される。</p> <p>(2) 定植後、降雨がない場合は、灌水不足による活着や生育不良が懸念されるため、欠株の防止が必要である。</p> <p>2 病虫害</p> <p>(1) ハイマダラノメイガについて、加西市におけるクレオメ（誘致植物）の調査では発生量はやや多く、今後の気象予想も高温が予想され、増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類（アブラナ科）では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。</p> <p>(2) ハスモンヨトウの発生は加西市、南あわじ市におけるフェロモントラップ調査では6月以降の誘引量はやや多く、今後の気象条件は高温が予想され、増殖には好適であるため、今後栽培される野菜類では、やや多い発生状況で推移すると考えられる。</p>	<p>1 栽培管理</p> <p>(1) 週間予報などを参考に作業計画を立てる。排水溝の点検を常に行い、特に台風や大雨の前には溝をさらえておく。冠水時は早期の排水に努める。</p> <p>(2) 定植後は、灌水チューブ等で十分灌水し、活着と初期生育を促進させる。乾燥時の中耕は浅めに行う。</p> <p>2 病虫害</p> <p>(1) キャベツなどアブラナ科野菜の育苗期および定植直後の加害は被害が大きいため、不織布や寒冷紗などによりハイマダラノメイガの飛来を避ける。</p> <p>(2) ほ場をよく観察し、適切に薬剤を散布する。</p>										
果樹	全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 適度な土壌水分を維持する。</p> <p>(2) 果実の成熟が全般的には早まる傾向にあるが、園や品種等によってバラツキがあるので、適期収穫に努める。</p> <p>樹種別の生育状況</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>クリ</td> <td>生育は平年より早く、早生の成熟期は、平年比で1週間程度早い（昨年並み）見込みである。着量や果実肥大にはバラツキが大きく、円形褐斑症の発生が目立つ。</td> </tr> <tr> <td>ブドウ</td> <td>成熟期は、全般的に早まる傾向であるが、園によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。</td> </tr> <tr> <td>ナシ（青ナシ）</td> <td>生育は順調で熟期は早い。</td> </tr> <tr> <td>イチジク</td> <td>果実の収穫開始は平年に比べ3日程度早い。降雨が少なく、果実はやや小玉で糖度は高い傾向である。腐敗果の発生は少ない。</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン</td> <td>果実の生育は平年並みだが、降雨が少なく減酸が遅れている。</td> </tr> </tbody> </table>	クリ	生育は平年より早く、早生の成熟期は、平年比で1週間程度早い（昨年並み）見込みである。着量や果実肥大にはバラツキが大きく、円形褐斑症の発生が目立つ。	ブドウ	成熟期は、全般的に早まる傾向であるが、園によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。	ナシ（青ナシ）	生育は順調で熟期は早い。	イチジク	果実の収穫開始は平年に比べ3日程度早い。降雨が少なく、果実はやや小玉で糖度は高い傾向である。腐敗果の発生は少ない。	温州ミカン	果実の生育は平年並みだが、降雨が少なく減酸が遅れている。	<p>1 生育</p> <p>(1) 高温、乾燥が続く場合は、灌水、敷きわらなど乾燥防止対策を行う。過度の灌水は避ける。</p> <p>(2) 食味およびカラーチャートや糖度計等を活用し、果皮色、糖度、酸含量、果実の硬さ等から収穫適期を判断する。</p>
クリ	生育は平年より早く、早生の成熟期は、平年比で1週間程度早い（昨年並み）見込みである。着量や果実肥大にはバラツキが大きく、円形褐斑症の発生が目立つ。												
ブドウ	成熟期は、全般的に早まる傾向であるが、園によっては高温傾向のため着色や減酸が遅れている場合がある。												
ナシ（青ナシ）	生育は順調で熟期は早い。												
イチジク	果実の収穫開始は平年に比べ3日程度早い。降雨が少なく、果実はやや小玉で糖度は高い傾向である。腐敗果の発生は少ない。												
温州ミカン	果実の生育は平年並みだが、降雨が少なく減酸が遅れている。												

クリ、ブドウ、イチジクは農業技術センター(加西市)、ナシは但馬地域、温州ミカンは淡路農技を基準

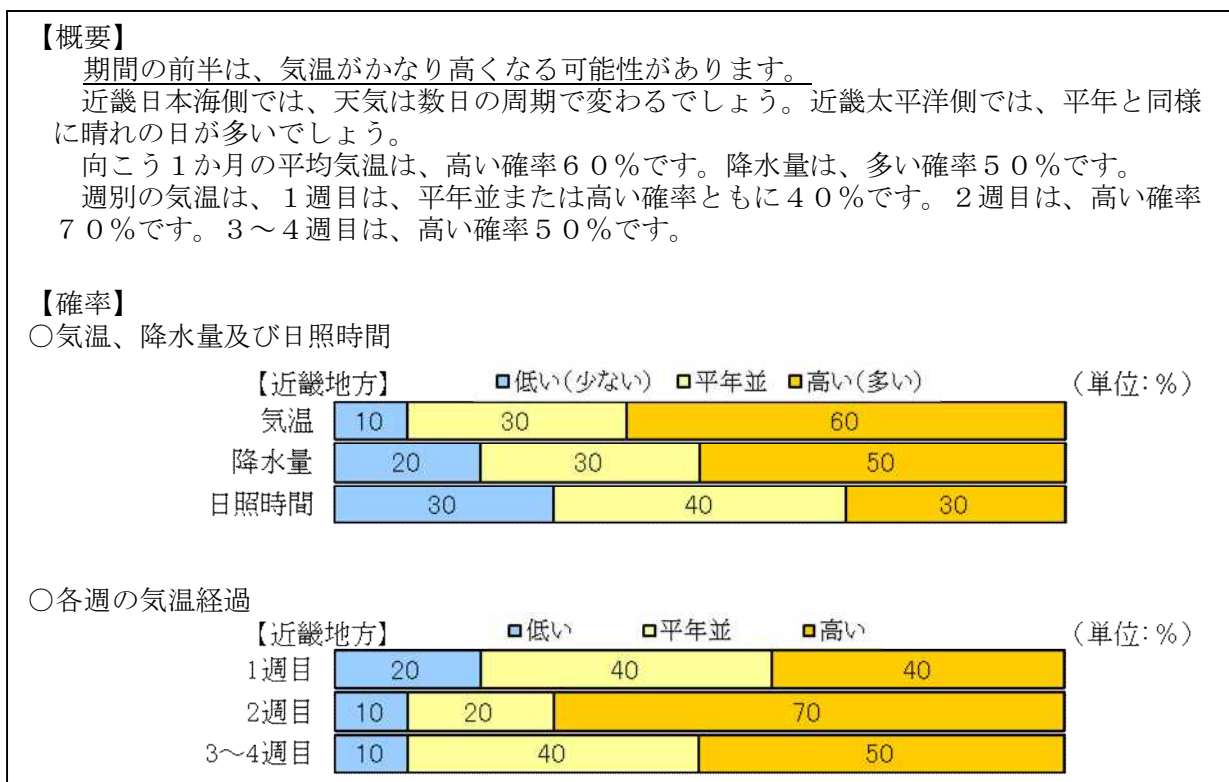
作物	地域	栽培上の留意点	対応策
果樹 樹 続 き	全 県 共 通	<p>2 台風対策 台風の接近に対する備えを行う。</p> <p>3 病害虫 (1) 今後の降雨による病害の増加が懸念される。イチジクの腐敗果等病害の発生が懸念される。</p> <p>(2) カメムシ類が、平年に比べてやや多いと予想される。 ナシ、イチジク等ではハダニ類の発生が多い。</p>	<p>2 台風対策 枝折れ防止のため、枝の結束や支柱を強化する。防風ネットの補強に努め、葉ずれ等による傷果の発生を減らす。 収穫可能な果実はできる限り収穫しておく（農薬使用基準に留意）。 雨水が速やかに園外に流れるよう、排水溝、排水口の点検をする。</p> <p>3 病害虫 (1) 病害の発生に注意し、適切な防除に努める。 イチジクでは、腐敗果を早めに処分し、病菌を媒介するショウジョウバエ類の発生を防ぐ。</p> <p>(2) 発生動向に注意し、適切な防除に努める。</p>

◎防除については「病害虫発生予察情報」及び「兵庫県農薬情報システム」を参考にすること。
※本情報は、8月29日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報（8月27日～9月26日）

[平成28年8月25日 大阪管区气象台発表]



(2) 近畿地方の向こう3か月予報（9月～11月）

[平成28年8月24日 大阪管区气象台発表]

【概要】

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

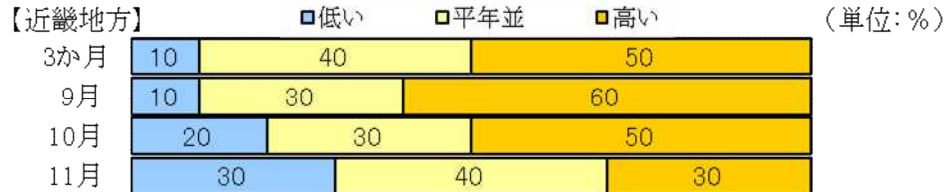
9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。気温は、高い確率60%です。

10月 近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

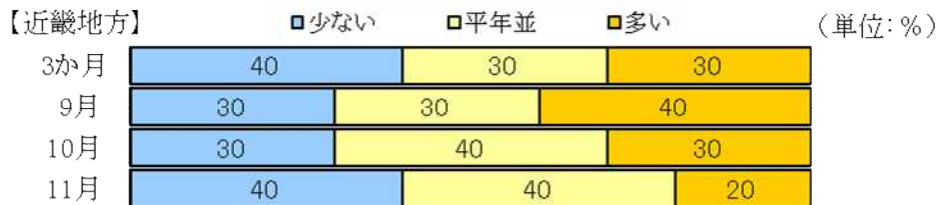
11月 近畿日本海側では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。

【確率】

○気温



○降水量



※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1981～2010年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・ 「病虫害発生予察情報」
<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>
- ・ 「兵庫県農薬情報システム」
<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>
- ・ 「Web 水稲生育予測システム」
<http://www.aginfo.jp/RGP/>
- ・ 「携帯用水稲生育予測」
<http://www.finds.jp/ricediag/kt/index.php>

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・ 兵庫県農政環境部農林水産局農産園芸課 TEL (078)341-7711(代表)
農産班:主作・機械担当 内線 4074
農産班:野菜担当 内線 4054
花き果樹班 内線 4066

技術内容に関すること

- ・ 県立農林水産技術総合センター
企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880

兵庫県ホームページでも本情報を公開しています。

URL : http://web.pref.hyogo.lg.jp/af11/af11_000000097.html
(兵庫県トップページ>食・農林水産>農業>農作物>農業気象技術情報)